からみレンガ

岡富中の塀

大正初期の遺構

倒壊防止へ 建築士ら保存方法探る

8/27

延岡

大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故を受けた延岡市の調査で、建築基準法施行令の基準に不適合と判断された岡富中学校の「からみレンガ塀」について、県ヘリテージマネージャー機構延岡支部（高橋寿支部長）が25日、現地調査した。補強の方法など保存に向けた提案をまとめ、9月中に同市教育委員会に提出するという。

岡富中学校南側に約140㍍にわたり連なる「からみレンガ塀」

ヘリテージマネージャーは地域の歴史的文化遺産を発見、保存活用し、まちづくりに生かす専門家で、同機構延岡支部は、県建築士会延岡支部の会員8人で構成。現地調査は、「からみレンガ塀」の保存方法などを研究するため、ボランティアで行われた。

塀の構造を調査する県ヘリテージマネージャー機構延岡支部の会員ら

同中学校南側に約140㍍にわたって残る「からみレンガ塀」は、大正時代の初期に旧延岡高等女学校の塀として建造されたとされ、使われているレンガは旧延岡藩主の内藤家が経営した日平銅山（同市北方町槙峰）の〝からみ〟（銅を精錬した後の残り）でつくられている。

市教委などによると、塀の高さは下段の石積み部分を合わせて約2・1㍍。石やレンガ、コンクリートブロックなどを積み上げる「組積造（そせきぞう）」と呼ばれる構造で、塀の高さなどが建築基準法施行令の基準を満たしていないため、不適合と判断した。

現地調査は、レンガ塀裏側の部分にあたる学校側の敷地に、塀に沿って縦約150㌢、幅60㌢、深さ170㌢の穴をショベルカーで掘り、土中に隠れた部分の塀の構造、施工の状況などを調査。石積みの上にレンガを積み上げた構造で、基礎がないことなどを確認したという。

高橋支部長は「安心安全が第一なので、レンガ塀を壊す方法も一つの大きな選択肢だと思うが、ヘリテージマネージャーとしてはいかなる形で保存ができるか、補強や移設の方法などを専門的に考え、提案したい」。市教委は「提案などを踏まえて考慮した上で、なるべく早く対応方法を決めたい」としている。

2018.8.27